

新木津川大橋

新木津川大橋は、大阪港一帯の「テクノポート大阪」計画のもとに文化、スポーツ、レクリエーション、居住のためのエリアと施設を盛り込んだ複合的な都市機能の拡充が図られ、臨港地区に環状道路網をつくり、物流の充実と周辺道路の混雑緩和を目的に架けられました。新木津川大橋は、木津川の河口に位置し、大正区と住之江区とを結ぶ橋で、河川内の航路(幅 150m、高さ 46m)確保のため、全長 2.4km におよんでいます。本橋は川を渡る主橋梁(長さ 495m 幅員 11.25m)と両岸のアプローチ橋で構成され、主橋梁の形式は経済性と施工性に加えて景観面も考慮してつくられました。大正区側のアプローチ部(長さ 880.96m 幅員 12.75m)は、用地の制約から 3 層ループ形式が採用されました。

現在、この形式としては日本最大で、大阪港を代表する橋の一つとなっており、平成 6 年に土木学会の「田中賞」を受賞しています。

本橋は、車道と歩道に分かれており、歩道部は人も自転車も利用できます。



(写真提供 (財)大阪市都市工学情報センター)

木津川渡船場(きづがわとせんじょう)

～カーフェリーボートから変身した渡船～

概要

大正区船町 1 丁目と住之江区平林北 1 丁目を結んでいます(岸壁間 238m)。昭和 30 年からカーフェリーを運航し乗用車から大型トラックまで運搬し得る能力を持っていましたが、上流部に千本松大橋が開通し、今は人と自転車のみを運ぶ渡船となっています。大正区戦災復興事業によって、区内にあった木材関連施設を住吉区(現住之江区)平林へ移転することになり、これに伴い利用者の便に供するため渡船の運航を始めました。

水が綺麗になったためか、渡り鳥が飛来し、毎年 10 月から翌年 4 月にかけて魚をとる姿がみられます。

なお、大正区側の「船町(ふなまち)」の町名は難波宮(なにわのみや)賛美の歌「あり通ふ難波の宮は海近み海人をとめらが乗れる船見ゆ」(巻 6-1063)に由来しています。



『大正区ホームページ』から転載

